

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平2-203735

⑬ Int. Cl.⁵
A 22 C 17/08

識別記号 庁内整理番号
7421-4B

⑭ 公開 平成2年(1990)8月13日

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全3頁)

⑮ 発明の名称 豚等の頭部ブラッシング装置

⑯ 特 願 平1-24423

⑰ 出 願 平1(1989)2月2日

⑱ 発 明 者 伊 倉 陽 二 茨城県土浦市中村南3-2-17
⑲ 出 願 人 伊 倉 陽 二 茨城県土浦市中村南3-2-17
⑳ 代 理 人 弁理士 斉藤 晴男

明 細 書

1. 発明の名称

豚等の頭部ブラッシング装置

2. 特許請求の範囲

(1) 箱状の本体ケースの上面に異物収集口を設け、前記異物収集口の上方に、周面に多数のブラシを不規則な配列にて植設したブラシドラムを回転自在に軸支して成る豚等の頭部ブラッシング装置。

(2) ブラシが長さが区々の細棒を束ねたものである請求項1記載の豚等の頭部ブラッシング装置。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、屠殺後胴体から切り離された豚等の頭部に存する頬部その他の肉を利用するために、前記頭部をブラッシングして異物を除去する装置に関するものである。

(従来の技術)

従来豚等の頭肉は駄肉として余り利用されていなかったが、その肉は胴体と異なる油成分を

含んでいて独特の味がするため、最近ではポークシューマイ、ポークギョーザその他の用途に広く利用されるようになってきた。その利用に当たっては、頭部を洗浄して付着している汚泥等の異物を除去しなければならない。即ち、屠殺場から送られてくる頭部は汚れがひどいために、そのまま利用することはできない。そこで先ず、スキンナーと呼ばれる装置にかけて頭部表面の毛を除去するが、肉繊維に絡み付いた毛や、肉間に付着したゴミや砂等の異物は容易には除去できない。そこで従来は大量の水(頭部1個につき約25ℓ)をかけながら全くの手作業にて異物を摘み取っていた。また、ジェット水流で除去する方法や、吸塵機で吸塵する方法も試みられた。

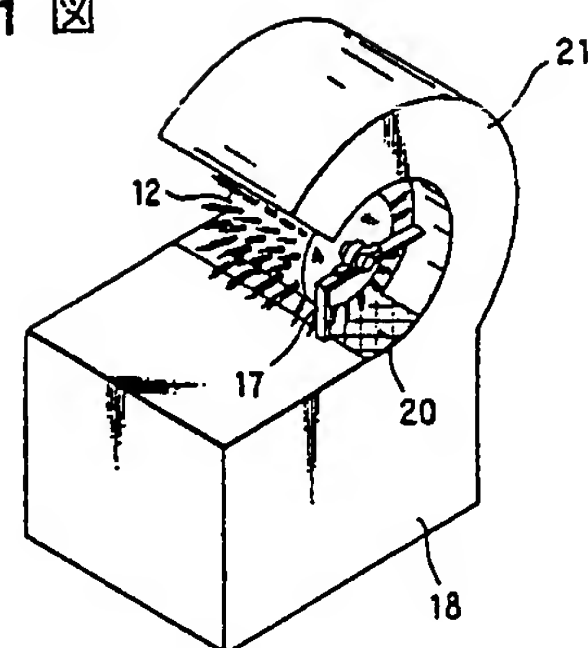
(発明が解決しようとする課題)

上記従来の洗浄方法によった場合、満足のいく程度に異物を除去することは困難であり、殊に手作業による場合は効率が悪いだけでなく、大量の水を使用しなければならないという問題

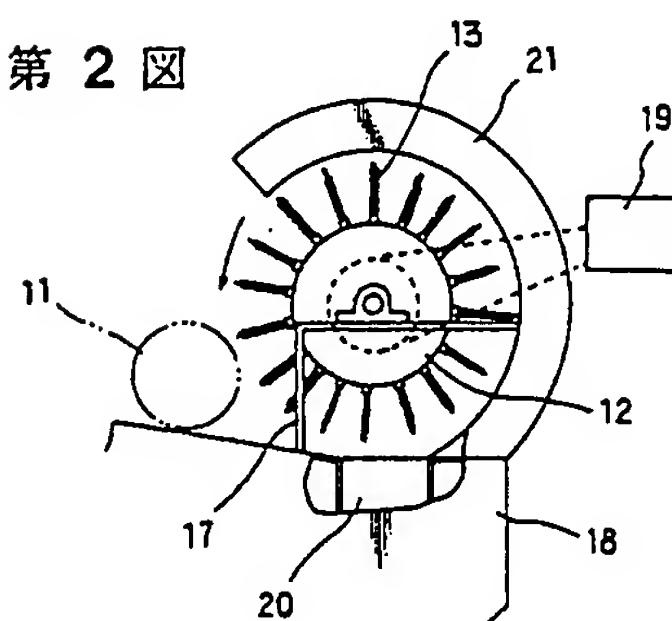
- | | |
|------------|-------------|
| 11---豚頭部、 | 12---ブラシドラム |
| 13---ブラシ、 | 14---細棒 |
| 15---金属管、 | 16---肥大部 |
| 17---アングル、 | 18---本体ケース |
| 19---モーター、 | 20---異物収集口 |
| 21---フード | |

特許出願人 伊 倉 陽 二
代理人弁理士 斎 藤 晴 男

第 1 図



第 2 図



第 3 図

